

<全体分析>

試験時間 120 分

解答形式

記述式中心。読解総合の一部と聞き取り問題は客観式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

2021 年度から 3 年連続で、I 読解問題、II 自由英作文問題、III リスニング問題(A・B)の大問 3 題構成。大学入試問題ではもっとも長い部類に入る 1,500 words 前後の超長文となる読解問題では、下線部和訳・内容説明・適語補充など様々な問題が出題される。自由英作文問題は 3 つのテーマから 1 つを選んで 100～140 words で書く。聞き取りテストは試験開始 50 分後に始まる。

その他トピックス

- ・2020 年度まで 700 words 前後の文章が 2 題出題されていた読解問題は、2021 年度は 1,422 words の文章 1 題になり、以後連続して同じ形式を踏襲している。2023 年度は 1,574 words で 2022 年度の 1,560 words とほぼ同数。ただし設問数は 10 問で、2022 年度の 13 問から減少し、2021 年度と同数に戻った。
- ・自由英作文は、2016 年度以降、毎年異なる形式が出題されていたが、2023 年度は 2022 年度に続き画像を描写させる問題であった。画像の描写の問題は、2015 年度の 3・2016 年度・2019 年度・2022 年度に続き 5 回目の出題となる。また、制限語数は、2021 年度から 3 年連続して 100～140 words となっている。
- ・聞き取りは、2021 年度と 2022 年度は A がメモに設けられた空所に英語を補充する形、B が 6 つの選択問題に答える形だったが、2023 年度は A・B とともに 6 つの選択問題に変わった。聞き取り試験がすべて客観式になるのは 2018 年度以来である。2023 年度の A・B の総語数は 917 words であり、2021 年度の 1,192 words、2022 年度の 1,077 words と 2 年続けて減少している。
- ・大問 IIIA で出題された英文と同一のテーマ (マシュマロテスト) の英文が河合塾グリーンコース高 1 (TH) 冬期講習のテキストで使用されている。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「アメリカに根差す肉食の文化」 (1,574 words)	アメリカ人と牛肉を食べる文化の関係性を論じた英文を読み、記述式・客観式の様々な問題を解く。英文自体は比較的読みやすいが、解答の難しい設問がいくつかあり、特に 4 の内容説明問題は制限字数内に解答をまとめることは至難である。 《出典》Ligaya Mishan, “What Does the End of Beef Mean for Our Sense of Self?”, <i>The New York Times Style Magazine</i> , March 6, 2022	標準
II	英作文	1 「音楽の力」 2 「狼狽する画家」 3 「勝利したキュービッド」	与えられた 3 つの画像から 1 つを選び、それを 100～140 words の英語で描写する。2022 年度と同一の形式であるが、2022 年度は 3 つの画像すべてが写真だったのに対し、2023 年度はすべてやや古い時代の絵画が出題されている。 《出典》 1 Alphonse Léon Noël, <i>The Power of Music!</i> (1848) 2 Frederick Daniel Hardy, <i>The Dismayed Artist</i> (1866) 3 Jan van den Hoecke and Paul de Vos, <i>Amor as Winner</i> (1640)	標準

<大問分析>

Ⅲ	聞き取り	A「マシュマロテストからわかること」 (419 words)	英語の講義を聞き、内容に関する6問の4択問題に答える。講義は2回流れる。マシュマロテストという有名な実験に関する内容であったため、なじみのある受験生には解答しやすい問題であった。	標準
		B「音楽における反復の効果」 (498 words)	英語の講義を聞き、内容に関する6問の4択問題に答える。講義は2回流れる。一部に難しい語彙や、紛らわしい選択肢が含まれており、Aよりは解答しにくい問題。5と6については想定されている解答を絞ることはできるが、スクリプトの内容を正確に反映した選択肢になっていない。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・2021年度から大問3題の構成で安定しているが、それまでは毎年のように構成が変化しており、安定しているこの3年間でも各設問には小さな変化がある。したがって、過去問題にこだわり過ぎず、どんな問題でも対応できるように、語彙・文法・解釈などにしっかり取り組み、土台となる英語力を高めることが大前提である。そのうえで、一橋大学の英語の攻略には以下のような対策をとってもらいたい。
- ・1,500 words 前後の超長文に取り組むためには、内容把握の力を高めることが必要である。論説タイプの英文を、はじめは短めのものから順に長いものへ論旨の展開を追いながら読む練習に取り組もう。内容説明問題は対応箇所を正確に見極めることが重要だが、字数制限内でうまくまとめる日本語の表現力も必要となる。日頃から文に含意された具体的内容や理由などの説明を、簡潔な日本語で書く練習をするとよい。
- ・自由英作文の出題内容は近年流動的であるので、一橋大学の過去問題だけでなく様々な形式の問題に取り組むと良いだろう。
- ・2023年度の聞き取り問題はすべて客観式になったが、従来の一橋大学の聞き取り問題はディクテーションの力を問うものが基本であった。引き続き、聞き取り試験に向けては、ディクテーションや、音声を聴きながら大意を把握する練習が学習の中心となる。過去問題を使って、質問を頭に入れたうえで音声を聞き、その質問が求める情報を取得する練習も積んでおきたい。